



重点課題

CSR基盤をサプライチェーン全体にわたり強化する

2030年
目標

- (1) 環境、倫理、人権を考慮した持続可能な調達の実現
- (2) 生物多様性に関する法制化への確実な対応

SVP2030では、環境、倫理、人権等、すべての企業活動の基盤となるCSR項目について、改めて重要な課題として位置づけています。調達においても「富士フィルムグループ 調達方針」を掲げ、お取引先と連携しながら活動を強化・推進することで、持続可能な調達の実現に向けてより強固なサプライチェーンの構築に取り組んでいきます。また、富士フィルムグループ「生物多様性の保全に関する基本認識と行動指針（略称「生物多様性方針」）」（2009年6月制定）に基づき、私たち人類が享受している生態系からの様々な恩恵を将来に向けて存続させるため、生物多様性の維持・保全にも努めています。

人権声明 <http://www.fujifilmholdings.com/ja/sustainability/vision/human/index.html>
 生物多様性方針 <http://www.fujifilmholdings.com/ja/sustainability/vision/creature.html>

2018年度
の活動

【目標】持続可能な調達の推進

- 中国の機械組み立て系工場サプライヤーへの（社内の専門スタッフによる）専門訪問診断、及び問題点の改善支援開始（FF）
- お取引先トラブル起因のラインストップゼロの達成⇒FXシンセン【4年連続】、FXハイフォン【3年連続】（FX）
- 紛争鉱物来歴調査回収率100%（顧客要請が高いドキュメント事業において）



中国でのサプライヤー説明会の様子

【目標】生物多様性に関わる法規制への対応

- 社内規則に基づき、製品設計段階から生物資源調達に関するリスクアセスメントを実施継続（2010年2月より）
- 経済産業省「名古屋議定書対応タスクフォース委員会」に参画、最新の法規制動向を収集（2014年度より継続参画）
- 重要商材の「用紙」調達について、社内規程・ガイドラインに基づくリスクマネジメントを実施継続（2012年より）

【その他の活動】

- 2018年6月、CSR委員会（現ESG委員会、委員長は社長）での「富士フィルムグループ人権声明」承認、公表
- 2019年4月、富士フィルムグループ企業行動憲章・行動規範を改定し、人権の尊重に関する記載を強化。人権声明の周知を含む教育を開始
- 改めてグループ全体の人権影響評価を実施し、重点的に取り組む人権課題を決定
- 自然資本プロトコル※に沿った用紙に関する自然資本評価の実施

※自然資本プロトコル：自然資本連合（NCC）がまとめた、自然資本への影響や依存度を計測・価値評価し、意思決定や戦略につなげるための標準化した枠組み。2016年7月に初版発行
 FF：富士フィルム FX：富士ゼロックス

▶関連資料・データ： **マネジメント編** P35 サプライチェーンマネジメント、P65 生物多様性、P77 人権

今後の
活動&目標

- 中国組み立て系工場サプライヤーへの専門訪問診断定着、及び改善支援活動のさらなる強化（FF）
- 紛争鉱物来歴調査の回収率95%以上の維持、さらなるデータ精度の向上（顧客要請が高いドキュメント事業において）（FX）
- 2018年度活動の継続による、調達に対する生物多様性リスクマネジメントの徹底継続・強化
- 自然資本プロトコルに沿った事業評価の拡大
- 重点的に取り組む人権課題（特定された人権リスク）に対する予防・軽減策の強化と進捗のモニタリング